

## 町のために、自分たちができることを

特定非営利活動法人 大熊町ふるさと応援隊  
渡部千恵子様、市川スミ様、内山佐代子様

### 町の様子や、町民の思い

#### ■現在の活動

「避難する町民に大熊町の現状を知ってもらう活動」「大熊町の現状を発信する広報・県内外での語り部活動」「町民の思いを役場へ届ける活動」の3つを行っています。活動外では、メンバーそれぞれが異なる地域で避難生活・生活再建を行っています。



大熊町の現状を知るバスツアーの様子



大熊町ふるさと応援隊の皆さん

### 自分たちにもできることを

#### ■活動のきっかけ

全くの素人だった私たちがNPOを立ち上げたのは、多くの方が懸命に支援してくださる中で「自分たちもできることがしたい」と思ったからでした。特に じじい部隊(※)のお手伝いをしたいという思いが直接のきっかけで、私たちも継続的な組織活動をしたと考えていました。幸いにも、事務局になってくれた方々からのフォローも受けられて実現しました。

#### ■震災前から活動まで

(渡部さん) 保育士をしていました。震災後、田村市の避難所で自主ボランティアの立ち上げ、次の避難先である会津で学童保育を行いました。定年退職後は当団体の代表となり、活動の一環として大熊町の写真を撮りためています。

(市川さん) 食堂経営をしていました。避難所での自主ボランティアに参加し、届けられた支援物資の材料の調理や声掛けなどを担当しました。その後、避難先のいわき市で仮設住宅の自治会長として活動する傍ら、当団体の活動も行ってきました。

(内山さん) 保育士をしていました。震災後、避難先の会津で学童保育を行いました。現在は、ふるさと応援隊の活動をしながら、いわき市で避難生活をしています。



渡部さん

内山さん

市川さん

※じじい部隊  
避難指示により無人になった大熊町内で、国の整備対象から外れた地域でもパトロールや地域整備を行う。役場職員や消防団のOBで構成されている。

## 直接見て、話をして、つながる

### ■活動や生活で感じたこと

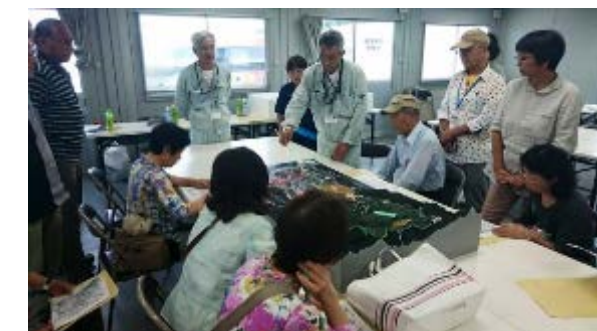
(市川さん)「避難者だから」と殻に閉じこもらず、人とのつながり大事にしていきたいです。避難先で「賠償金をもらえて、楽に生活できていいね」と言われ傷ついたこともありますが、互いに言葉で伝えないとわからないこともあります。新たなコミュニティに入っていくことは大きなエネルギーが必要ですが、丁寧に話をすることで心の壁をなくし、自分らしく生活していきたいと思います。

(内山さん)震災地の状況は、報道だけではなく直接見ないとわからないこともあります。実際に見てみることで、自分の地域に置き換えて将来起こるかもしれない避難の準備を考えることもできますし、偏らず情報を入手できると思います。復興が進んでいるところ、進んでいないところを、自分の目でみて感じてほしいと思います。

(渡部さん)住民の方々の想いはさまざまです。「自分の家でなくても町内に戻りたい」という人もいれば、「自分の家に帰れないのであれば、どこにいても一緒」という人もいますので、丁寧にその想いを町役場へ届けてきました。また、震災後の活動を通して町内外のたくさんの方々とのつながりを持つことが出来ました。このご縁を大切にしたいと思っています。



避難指示の出た町でも残る鮮やかな自然



町について意見を交わす住民の皆さん



2018年3月末まで、6年以上仮設住宅の自治会長を担当した市川さん。  
「無我夢中だったから、苦勞とは思っていない。今後は楽しんで生活したい。」

## それぞれの生活を応援する

### ■今後の活動について

2019年春には、大熊町内に復興公営住宅や役場庁舎ができるので、帰還住民も出てくると思います。団体としては町内の活動を増やし、町内に戻る人・別の拠点で生活再建をする方など、それぞれが頑張っていくお手伝いできればと思います。今後、団体の活動が変わっても、町内の写真を撮りためたり、語り部の活動はそれぞれ続けていきたいです。

(市川さん)仮設住宅の入居者も減少したことから今年2018年3月に自治会が解散しました。これからは畑仕事をしたり、花を植えたり、思う存分楽しんで生活したいと思います。